

太宰府市立太宰府中学校

夢追人 第7号

少しだけ、立ち止まって考えてみよう！

以昨年も『夢追人』で紹介した『鈍行列車』という詩の一部を、再び、この時期だからこそ紹介します。3年生は受験に向けて、そして、1・2年生は、10月からの多くの行事を乗り越え少しだけホッとする時期だからこそ、自分の歩みを少しだけ止めて考えてほしいのです・・・。

筆者が乗った列車に、足を不自由にしている子供が疲れてコックリコックリ眠り始め、その横で一緒に旅をしている母親を前にしての場面です。

『失礼だとは思ったのですが、さきほどから微笑ましく拝見させていただいておりました。息子さん、脚を怪我されたのですか？。そうですか、幼い時から松葉杖を、ご不自由とは存じませんで失礼しました。それにしても長い時間ゆられていく鈍行列車の旅はお疲れになるでしょう。もっと楽にいける方法があるのでは？特急や急行が停まらない所なのですか？』

母親はかたわらの松葉杖を手にするると愛おしそうに抱きしめて話はじめました。

『特急も急行も停まる所です。その方が明るいうちに着きます。でも私は、この子に「急いで行っても、ゆっくり行っても、同じ所に着けるのよ」ということをわかってもらいたいのです。これからも、この子は多くの人に追い越されます。たくさんの人がこの子を追い抜いていきます。でも、「一生懸命に歩きつづけていけば、目的に向かって一途に歩いていけば、必ず同じ所に着ける」そのことをこの子に知ってほしいのです。』・・・。

夕陽につつまれたわが子を見つめる母親の眼差しに祈るような思いがこめられていた・・・。

「一生懸命に歩きつづけていけば、目的に向かって一途に歩いていけば、必ず同じ所に着ける」の母親の言葉。どのようなメッセージが込められているのでしょうか？

人間って不思議なもので、ついつい自分と他人を比較してしまいます。そして、他人に劣る自分を責めたり、そこに、言い訳をしたりして、全てを正当化してしまう場合があるのではないのでしょうか。そのような弱い生き方をするのではなく、『たとえ多くの人が自分の前を通り過ぎ、追い越していったとしても、自分自信に確固たる目標をもち、一步一步、歩を進めることで、必ず同じゴールに着くことが出来るんだよ』ということを教えてくれているような気がしてならないのです。全ては、他人との比較ではなく、自分自身なんだよってことを・・・

多くの太宰府中教育活動へのご支援に感謝します・・

10月の太宰府中は、例年になく多くの教育活動を実施して来ました。10月22日の「おもてなしプロジェクト」、そして29日の「研究発表会」や「多賀城市中学生訪問」等において、たくさんの保護者の皆様や地域の皆様に支援をしていただきました。来校された方々から「保護者の対応が素晴らしく、気持ちよかった」等の多くの声を頂きました。また、「おもてなしプロジェクト」や「多賀城市中学生訪問」では、洋菓子店のジャンドゥの監修による「令和クッキー」づくりや、水城製粉からは梅ヶ枝餅の粉や餡子を無償でいただき多賀城市の中学生達が梅ヶ枝餅づくりを体験する素晴らしい場をつくる事が出来ました。太宰府の家庭の教育力、地域の教育力の高さを心強く感じる事が出来ました。多くの皆様から頂いたご支援に深く感謝いたします。本当にありがとうございました・・・

太宰府魂

『うさぎとかめ』

皆さんは『うさぎとかめ』の話を知っていますか？うさぎとかめが競争して、かめが勝った話です。うさぎと、かめ、競争したらどちらが早くゴールするかなんか、普通に考えたらうさぎが勝つに決まっています。それなのに、なぜ、かめは、うさぎと競争したのでしょうか？どうして、かめは、最初から負けるのにわかっているのに、うさぎの『競争しよう』の誘いにのったのでしょうか？

実は、この疑問には諸説があるようです。「かめは寝ているうさぎを起こさなかったということ、スポーツマンシップに欠ける」という考え方や「うさぎは、世界一のろまなかめにやる気を与えるためにプライドを捨てて負けてやったんだ。本当の勝者はうさぎなんだ」という考え方もあります。

中学校時代、担任の先生がこんな話をしてくれました。「あなたたちは、私がうさぎで、君たちが世界一のろいかめとして、あなたならうさぎの挑戦を受けますか？どうして、亀は、うさぎの挑戦をなぜ受けたのでしょうか？先生はこう思うのです。うさぎは自分と亀を比較して負けてしまったんだと。どうせかめはのろいからと、自分と亀を比較してしまったから寝てしまい競争に負けたと思うのです。でもね、かめは、自分とうさぎを比較なんかしなかった。かめは、相手は誰でもよかったんだと思う。うさぎでも、ライオンでも、チーターでもよかったと思うのです。どんな相手であっても、自分の力を最後まで一生懸命出し切る事を一番に考えたんだと思うんです。皆さんもぜひ、これからの生き方の中で、このかめのような偉い生き方をしてほしいのです。人と比較しない生き方、人と比較するのではなく、自分自身だけには負けられない生き方をめざしてほしいのです・・・」。この教えは、今でも役に立つときがあります。「うさぎとかめ」の話を心に置くことで、他人が気にならなくなり少しだけ心が楽になる時があります。ナンバー1よりオンリー1を目指す生き方こそ自己を高めるのではないのでしょうか。

しかし、本当は、自分自身との闘いの方が厳しいのかもしれない。その自分自身との闘いを乗り越えた人にこそ、新しい世界が目の前に広がり、夢の実現につながっていくのではないのでしょうか？